



High School
なう。
チャレンジする仲間たち

団結力で全国目指す

▲全国大会出場を目指す部員と、副顧問のダグラス・エメット教諭(左)、アナスタシア・レチャヤ教諭(右)



部員15人のうち有段者は二段2人、初段4人の計6人。中高一貫校のため、前期課程(1~3年)で百人一首大会を実施しており、部員は百人一首に慣れ親しんできた。目標は、県高等学校

畳の上に整然と並べられた百人一首の取り札を前に、じっと集中して耳を澄ませ、読み札が読み上げられた瞬間、素早く札を取る競技かるた。9期生が在学中に創部し、一昨年は県高等学校百人一首かるた学校対抗戦で準優勝するなど着実に力を付けている。今年1月に行われた第65期名人位決定戦で優勝した、糸原圭太郎さん(安中市出身)はOBであり、11期生の松井瑞穂部長は「糸原さんの活躍に刺激されている部員も多い」と目を輝かせる。

中央中等教育学校 文化部百人一首班



▲百人一首読み上げ専用の機軸を使った練習

6月に行われた県高等学校百人一首かるた学校対抗戦には同校から2チームが出場し、Aチームが5位入賞だった。一昨年の同大会で準優勝を果たしているだけに悔しさは残るものの、今年入部した9人も出場して善戦し、来年への期待が膨らむ。松井部長は「反省点を出し合ったり、アドバイスしたりと率直で明るい部員同士の関係が団結力にもつながっている」とし、後輩たちにエールを送る。

活動は月曜から木曜の放課後。札を素早く取るための集中力と瞬発力を高める練習は欠かせず、毎週月曜は札を取る「払いの練習」、火曜から木曜までは試合形式の実戦練習を行う。近隣の学校との交流も盛んで、練習試合や大会を通じて切磋琢磨する。

百人一首かるた学校対抗戦で全国への出場切符を手にすること。全国大会の会場は「かるたの聖地」と称される近江神宮(滋賀県大津市)だ。部員は全国大会出場と昇段を目標に、個人差はあるが1人当たり年間10大会程度出場して経験を積んでいる。